

図書館の窓から

秋

2014.10 No.146



「原爆の図 人間、その濁と清 丸木位里・丸木俊の世界展」はおかげをもちまして無事終了しました。大勢のみなさんから、ご来場いただきありがとうございました。

絵本原画「赤神と黒神」 ©丸木位里

【特集記事】

- ◆私の一冊 長岡市資料整理ボランティア 金澤 勝子 さん …… 3 p
- ◆中越大震災から10年 ～災害と復興の文庫をつくる～ …… 4・5 p

館長通信

キーワードは地域!～リレー講演会「災害史に学ぶ」～

今年、長岡市は、中越大震災（平成16年10月）から10周年、平成の市町村合併から10年を迎えます。

そこで、中央図書館文書資料室では、様々な分野の研究者を講師に招き、災害の歴史をテーマとした15の講演会を市内11地域で開催しています。

意外なことですが、同じテーマで、合併した11地域すべてを会場にして講演会を開催するのは、今回が初めてです。

6月22日から始まり、10月4日に9回目を迎えますが、各地域の

特徴を生かしたいという担当者や講師の熱意が原動力になり、各回の講演会がたまたま面白くなっています。

「八犬伝」「大竹貫一」「文政大地震」「天保の飢きん」「海難事故」「地盤」「古代遺跡」と、時にマニアック、時にアカデミックで、回を重ねるごとに、その魅力が増している気がしてなりません。

災害との関わりは、同じ自治体でも各集落によって濃淡（強弱）があり、同じ集落内でも、家や人によって違います。被災した長岡

市では、職員それぞれにも異なる中越大震災の関わり（思い）があります。

「地域」は個人の思いを包括する言葉（概念）であり、実は、リレー講演会の隠れたキーワードになっています。15の講演会の成果は、文書資料室の今後の活動の方向性を示してくれるに違いありません。

講演会は12月まで開催します。申し込みは以下からどうぞ。

<https://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/monjo/index.html>

（金垣 孝二）

文書資料室だより

古文書解説講座

～ 古文書にみる長岡のすがた ～

文書資料室では、長岡郷土史研究会と共催で「古文書解説講座～古文書にみる長岡のすがた～」を開催しています。今年で13回目となるこの講座は、市民の皆さんから好評をいただき、毎年少しずつ受講者の数が増えています。今年には約10名の方が新しく参加されました。

講座は全8回で、入門コースと一般コースに分かれています。入門コースでは、市内の地名や店の看板など、身近に見られるくずし字に触れることから始まり、比較的易しい古文書から順に読み進めます。30余名の受講者の皆さんは、辞書を片手にくずし字と奮闘しています。

一般コースはくずし字を読むだけでなく、古文書に書かれた内容から、当時の暮らしや文化・世相などを学ぶことも大切にしています。毎年50余名の参加者があり、皆さん予習復習を欠かさず、熱心

に受講されています。

この講座の特徴は、タイトルにもあるように、長岡に伝わる古文書をテキストとして使用していることです。証書類や宗門改帳、旅日記から襖の下張り文書まで、様々な古文書を読むことで、江戸時代の長岡に暮らす人々の息吹を感じとることができるでしょう。その魅力にとりつかれ、毎年はるばる市外から参加される方もいらっしゃいます。

今年度の講座は10月8日をもって終了します。文書資料室は、これからも受講者の皆さんに楽しく学んでいただけるよう、よりいっそう工夫しながら、古文書解説講座を毎年開催します。興味のある方、古文書の解説に挑戦してみたい方は、いつでも文書資料室までお問い合わせください。来年度のご参加をお待ちしています。

（桜井 奈穂子）



中央公民館大ホールにて

新潟県立歴史博物館秋季企画展
「日本人類学の黎明
-小金井良精資料を中心に-」
9月27日(土)～11月9日(日)

小金井良精（安政5～昭和19）は、東京大学医学部教授で解剖学者。父親は長岡藩士小金井儀兵衛、母親は小林虎三郎の妹です。文書資料室所蔵の小金井良精宛書簡や研究資料などが90点余展示されます。この機会にぜひご覧ください。

（問）新潟県立歴史博物館
TEL0258-47-6130

私の一冊

長岡市資料整理ボランティア

金澤 勝子 さん



新潮世界文学 31巻 モームII
モーム／著
新潮社



エッ「私の一冊」ですか。言われて、人生を変えたとか、指針になった一冊はないなあ。困ったと思いました。それで思い出話です。

可哀想な少女小説や伝記に夢中になり、風呂を沸かす毎日の役目、かまどの薪をくべ忘れて「ほら、また火が消えてるよ」と叱られていた小学生の頃、図書室に通って中学、高校時代を過ごした後、上京して貧乏学生は古本屋の文庫本の山に、モームを見つけました。

「月と六ペンス」「人間の絆」「雨・赤毛」「剃刀の刃」等を読んだ後の一冊、「ラムベスのライザ」を拾いあげたのです。

モームは十歳で両親を亡くし生まれ故郷のパリを離れ、イギリスの叔父に引き取られ、あまり幸せでない何年かを過ごしました。小説家になりたいと言い出せなくて悩んでいます。そして、将来自活のため医学校に入学。この小説は医学校で医局員の手伝いをしていて、その経験をもとに書いた処女作であると語っています。この短い小説を世に出してくれる出版者があり、作家としていくことを決心したのです。

19世紀中頃、イギリスの華麗な貴族社会とは別の世界の、ロンドンのラムベスという貧民街に住む人々、

陽気におしゃれして、赤裸々で、お酒を飲み本音で生きる人々の姿が描かれています。

街の人気者で元気な女主人公ライザ。恋に傷ついたライザの人生が悲劇に終わるのもたんたんと話がすすみ、医者であるモームの“来し方”感性がうかがわれるようです。

二人暮らしの母との日常の会話、愁嘆場になることもなく、娘に先立たれる母のありさま、日本のそれとは違って興味深く、そして少し物悲しい気分になりました。

モームさんには申し訳ないのですが、ドラマチックに展開するわけでもなく、面白くてわくわくする小説ではないです。しかし、人間はどんな事があっても生きていくのだと思ったものです。

ともあれこの後、O・ヘンリー、モリエール、T・ハーディ、モーパッサンなど、一人の作家の作品を読み続け、次へという作家行脚が始まった一冊です。

活字に目をさらさないと一日が終わらないのは変わりないですが、今は、カタカナの名前が覚えられなくて、近くの図書館から日本のミステリー、警察小説などをお借りして、就寝前のお伴にしています。叱られることもなく。



金澤 勝子 (かなざわ かつこ)

1943年長岡市生まれ。1964年、文部省図書館職員養成所卒業。防衛庁技術研究本部技術部調査課図書係。長岡工業高等専門学校学生課図書係。2004年に退職後、中越大震災をきっかけに誕生した長岡市資料整理ボランティアに発足時より参加。新潟県立近代美術館友の会ボランティアでも活動中。俳句、スキー、美術館、博物館めぐりなど多彩な趣味を持つ。

特集 中越大震災から10年



～さいがい ふっこう ふみくら 災害と復興の文庫をつくる～



図書館が避難所になった

平成16年(2004)10月23日17時56分、中越大震災が発生しました。近隣の指定避難所が被害をうけたため、長岡市立中央図書館は急遽、避難所になりました。「図書館の窓から」No.107(平成17年1月発行)に記録される、未曾有の大災害に避難者と避難所職員が立ち向かった日々から10年が過ぎようとしています。



▲避難所でのおはなし会(平成16年10月30日撮影)

「長岡市災害復興文庫」の開設

文書資料室は、震災発生直後から「歴史的資料の救済」と「震災関連資料の収集」を二本柱に災害対応を行っています。前者は損壊した土蔵・家屋から歴史資料を救出する、後者は市役所各課・学校・コミュニティセンター等から文書・写真などを収集する取り組みです。

文書資料室では、寄贈・寄託された被災歴史資料約25,000点と、震災関連資料約9,600点を再編成して、平成26年10月21日に「長岡市災害復興文庫」を開設します。将来的には災害関係の歴史公文書も加えていく予定です。長岡市の災害・復興に関わる文書資料を「文庫」に集積し、広く活用を待つ取り組みです。中越大震災に関する震災関連資料の一部は、国立国会図書館の東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」とデータ連携し、ホームページ(<http://kn.ndl.go.jp/>)から検索できるようになります。

経験・教訓を市民協働で伝える

「文庫」は、大勢の市民ボランティアの皆さんの協力によってかたちづくられてきました。



▲被災歴史資料をよみとく市民ボランティア

長岡市資料整理ボランティアは、平成17年10月に活動を開始。古文書の目録作成やクリーニング作業などを協働で継続しています。市内に開設された東日本大震災避難所の掲示物や事務文書を整理する活動は、市民の手で災害記録を伝承する試みとして、全国的にも注目を集めています。

震災10周年を記念して開催する企画展「災害と復興をかたりつぐ」は、「文庫」資料の展示を中心に、阪神・淡路大震災、東日本大震災との被災地連携による取り組みも紹介するものです。災害と復興の記録は、市民の共有財産ともいえる経験・教訓に満ちています。10年という節目に、後世に伝えたいことの数々を「文庫」から読み取っていただければ幸いです。(田中 洋史)

企画展「災害と復興をかたりつぐ」

会期：10月21日(火)～10月30日(木)10:00～18:00

休館日：10月27日(月)

長岡市立中央図書館2階 長岡市美術センター

【記念シンポジウム】

10月26日(日)13:00～17:00

長岡市立中央図書館2階 講堂(定員180名)

要申し込み(10月22日までに文書資料室へ)

【文書資料室ホームページ】

<https://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/monjo/index.html>

～震災関連資料～

『新潟県中越地震 特別報道写真集』

緊急出版 2004・10・23 新潟日報社

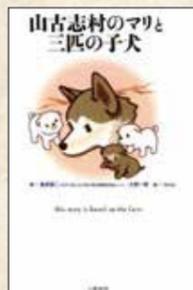
中越地震発生から約1ヶ月後に出版された、報道記録写真集です。地震発生直後の暗闇の中で不安そうに身を寄せ合う人々の姿や脱線した新幹線、避難先での生活の様子などが克明に記録されています。



『山古志村のマリと三匹の子犬』

桑原 真二 大野 一興/著 ikko/絵 文芸春秋

中越地震発生当時、山古志地区で暮らしていた犬のマリ。山古志の自然に囲まれ、飼い主の五十嵐さん一家のもとで健やかに成長し、3匹の子犬を産みます。しかし、その夜に地震が発生し、マリは子犬たちと山古志に取り残されてしまいます。避難先でマリを想う五十嵐さんの苦悩と生まれたばかりの子犬たちを守ろうとしたマリの決意を感じるこの出来る一冊です。



『帰ろう山古志へ 旧山古志村民の体験』

よした一山古志/編 新潟日報事業社

中越地震で多大な被害を受けた山古志地区。旧山古志村民が体験した地震への恐怖、故郷を離れ避難する無念さ、避難生活での苦難と人々への感謝が記されています。当時の体験が克明に記されており、読者をひきつけます。震災を乗り越え、故郷を復興するという決意が込められた一冊となっており、震災当時の報道記事や、美しい山古志の棚田の写真を見ることが出来ます。



『みんなで上げようフェニックス!』

小方 恵子/文 大塚 朗/絵 復興支援ネットワーク・フェニックス

長岡花火の目玉の一つ、復興祈願花火フェニックスはいかにして打ち上げられることになったのか。迫力のある打ち上げの様子を捉えた写真や、この絵本の原作となった作文などが掲載されています。震災という苦難を乗り越え、復興に携わった人々への感謝の気持ちの込められた一冊です。



中央図書館 郷土テーマコーナー「中越大震災から10年」展示中

ただ今、郷土コーナーで、中越大震災に関連する資料をご用意しています。この機会に資料を手に取り、震災の記憶と復興への道程をご覧ください。

所蔵資料紹介 No.142 陳観帖

『陳観帖』は、明治11年(1878)明治天皇の北陸巡幸の際、長岡で展覧に供するために表町の書店業目黒十郎が編集した画帳で、その後出版されました。

田中春回や片山翠谷、三芳野千春など、長岡町を中心に近郊の文化人40余名が結集し、12種類のテーマごとに画と和歌と漢詩とを合作します。

三島億二郎のダイナミックな「^{*}陳観」の揮毫と青柳剛齋の序文から始まり、その内容は、悠久山の桜、養蚕と製糸・紡績の技術を学ぶ女紅場、桂町の滝、また信濃川での漁労、農作業の様子など、豊かな情景描写により、当時の人々の暮らしぶりを見ることができます。

この画は、長岡藩士の家に生まれ、後に飯島文常の養子となった飯島半耕(1831~86)が描いた蔵王金峯神社です。画中の和歌は神官である海津正紀の作で「信濃川 千くまにもものそ 哀れなる 金のみたけに 照月を見て」とよめます。また半耕の漢詩は「金峯秋月」と題し、「風露虫声冷 金峰夜更幽 古村人不见 明月入江流」とうたいます。月が照らす秋の夜の美しさとももの哀しさは、昔も今も変わらぬものでしょうか。

※陳は陳の異体字です



越後文学さんぽ ~新潟出身の作家をクローズアップ~

小田 嶽夫 (おだ・たけお) (1900-1979)

新潟県高田市(現・上越市)出身。東京外国語学校(現・東京外大)支那語学科卒。1922年大学卒業と同時に外務省に入り、24年から28年まで、書記生として杭州領事館に赴任する。28年帰国、30年外務省を退職し、以後文学に専念する。36年、中国を舞台にした「城外」で芥川賞を受賞。41年から42年にかけてビルマに従軍。41年「魯迅伝」「紫禁城の人」を刊行。戦後は「裏がわの町」「真実の行方」「義和団事件」「小説坪田譲治」などを発表。75年「郁達夫伝」で平林たい子賞を受賞。他に自伝「文学青春群像」、訳書「魯迅選集・創作編」などがある。(参考:「作家・小説家人名事典」日外アソシエーツ)

『三笠山の月 小田嶽夫作品集』 小田 嶽夫／著 小沢書店

本書は、著者の全作品から単行本未収録の主な作品を選び、長男の小田三月さんが編集した作品集です。タイトルになった「三笠山の月」は、著者の小説としては遺作にあたるものです。遣唐留学生として唐の都、長安に住んで30余年。あれほど長安に、そして玄宗皇帝に心酔し、科挙の試験を受けて政府の役人にまでなった阿倍仲麿あべのなかまろでしたが、56歳の時、無性に望郷の念に駆られてしまうのです。亡き父母の面影、故郷の豊かな自然が、夜なかに目が覚めた時ばかりか役所で机に向かっている時にも、気がつくと頭の中を巡っています。職を捨て、家庭を捨てる決意をした仲麿。ようやく帰国の船に乗ることができた彼がその船上で美しい月を見て作った歌が、「あまのはら ふりさけみれば かすがなる みかさのやまに いでしつきかも」なのでした。

本書は、エッセイ、小説、評論、童話など幅広い内容を収録した作品集です。このなかで、「ビルマの憂鬱」という作品は著者が報道班として徴用された時の従軍記で、あまり目にする事のない戦争記録です。こちらもぜひお読みください。(徳永 馨)

旅に出よう。



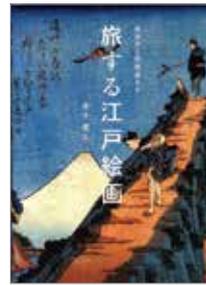
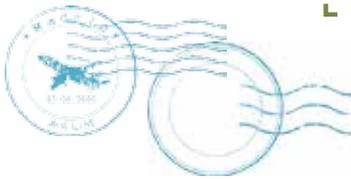
『旅のスケッチ トーベ・ヤンソン初期短篇集』

トーベ・ヤンソン／著 富原 真弓／訳 筑摩書房

ムーミンで知られる児童文学作家トーベ・ヤンソン。彼女は、画家としてだけではなく作家としても若くしてその才能を発揮していたそうです。本書はヤンソンが20代の頃に旅をしながら創作した短編集です。彼女が心惹かれたものや当時の時代背景をみることができます。 (中川 寛子)

『旅する江戸絵画』金子 信久／著 ピエ・ブックス

旅にちなんだ江戸絵画を集めた一冊。電車も飛行機もない時代、旅といえば何日もかけて歩くものでした。江戸時代の人々が目にした風景は、テレビやインターネットで簡単に世界中の情報が手に入る現代人が目にするものよりも、驚きと感動に満ちていたことでしょう。 (渡辺 恭子)



『明日のマーチ』

石田 衣良／著 新潮社

山形県の工場で派遣社員として働いていた若者4人。ある時突然会社から解雇を言い渡され、とあるきっかけで東京までの徒歩の旅が始まりました。思わず応援したくなるような4人のキャラクターが光る力強い小説です。 (横山知加子)

『見仏記ガイドブック』

いとう せいこう・みうら じゅん／著 角川書店

著者のライフワークである「見仏」の20年を綴ったガイドブックです。二人の鑑賞眼は「仏像鑑賞」の新たな魅力を伝え、仏像を身近に感じさせます。京都・奈良のお寺が中心ですが、県内のお寺も簡単に紹介しています。まずは近くのお寺から「見仏」してみてもいかがでしょうか。 (岩本 純子)

『知識ゼロからの駅弁入門』

桜井 寛／著 はやせ 淳／画 幻冬舎

旅の楽しみといたらやっぱり駅弁！！長年愛され続けている駅弁から最新の駅弁まで、思わず食べてみたくなるイラストとともに紹介されています。

読むだけで日本中を旅している気分になれる一冊です。 (山之内美里)



イベントガイド (10月～12月) ※全て参加無料

【読者のつどい】 互尊文庫1階 児童室 19:00～20:30

本の感想を話し合い人生観や文学論などを自由に語り合う会です。

- 10/24 (金) 『小さいうち』 中島 京子／著
- 11/28 (金) 『クリスマス・キャロル』 デイケンズ／著
- 12/26 (金) 『憂国』 三島 由紀夫／著



【映画会】 中央図書館2階 講堂 14:00～

- 10/10 (金) 「1911」(2011年 中国・香港) 123分
- 10/22 (水) **中越地震から10年**
「山古志村のマリと三匹の子犬」(2006年 日本) 45分
- 11/ 7 (金) 「ウェンディ&ルーシー」(2008年 アメリカ) 83分
- 11/24 (祝・月) 「11.25 自決の日 三島由紀夫と若者たち」(2012年日本) 120分
- 12/ 9 (火) 「真珠湾からの帰還 軍神と捕虜第一号」(2011年 日本) 88分
- 12/20 (土) **クリスマス映画会**
「世界名作劇場フランダースの犬」(2000年 日本) 90分
「ジンジャーとフレッド」(1988年イタリア・ドイツ・フランス) 122分

【文化講座 芭蕉 越後路の旅ー中越編ー】

11/2 (日) 中央図書館2階 講堂 14:00～16:00

講師：金森 敦子 (作家・新潟大学非常勤講師)

申込：10/10 (金) ～ 定員：180名

『おくのほそ道』には書かれなかった越後路の日々を、随行した曾良の旅日記から解き明かします。

【貴重資料に親しむ初心者向け講座 くずし字を読んでみよう】

12/13 (土) 中央図書館2階 講座室1 14:00～15:30

講師：小熊よしみ (当館嘱託員) 申込：11/26 (水) ～ 定員：25名

中央図書館所蔵の貴重資料 江戸時代の版本『北越雪譜』をテキストにした初心者向けくずし字講座です。

図書館ニュース

あなたの「お気に入りの一冊」を
募集します！

日頃、図書館を利用させていただいている皆さんから、お気に入りの1冊をご紹介します。150冊が目標の大募集です。本が大好きなあなた、奮ってご応募ください。



募集期間：10/1 (水)～10/30 (木)

展示期間：12/2 (火)～ 1/31 (土)

展示場所：一般テーマコーナー

応募方法：市内各図書館にある専用の応募用紙 (ホームページからもダウンロードできます) に必要事項を記入のうえ、市内図書館窓口にご持参ください。選んでいただいた本の表紙に、推薦者のコメントを貼り、展示・貸出をさせていただきます。

※推薦いただいた本が他の方と重複した場合、図書館に所蔵がない場合など、応募いただいても展示できない場合もあります。不明点などは、お気軽にお問い合わせください。



図書館で楽しむ！クリスマスコンサート♪

12/6 (土) 中央図書館2階 講堂

昨年、大変好評をいただいたクリスマスコンサートを今年も開催します。本格的な楽器の生演奏を、図書館でお気軽にお楽しみください。時間・申込など詳しくは、市政だより・HPをご覧ください。

平成26年10月1日発行

編集・発行 長岡市立中央図書館

住 所 新潟県長岡市学校町1-2-2

編集員 長瀬 貴子 山本 祐子 諏佐 志保
大関 健人 高橋 知香 若月 綾

メールアドレス lib@city.nagaoka.niigata.jp

HPアドレス http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp

印刷 北越印刷株式会社

名 称	電 話	休 館 日
中 央 図 書 館	32-0658	毎週月曜日 (祝日の場合は翌日) 毎月の末日 (土日祝と重なった場合は開館) 特別図書整理期間
互 尊 文 庫	35-7981	
西 地 域 図 書 館	27-4900	毎週木曜日 (祝日の場合は翌日) 毎月の末日 特別図書整理期間
南 地 域 図 書 館	30-3501	
北 地 域 図 書 館	22-7100	
中之島地域図書館	61-2165	毎週月曜日 (祝日の場合は翌日) 毎月の末日 特別図書整理期間
寺泊地域図書館	75-5159	
寺泊地域図書館 大河津地区図書室	0256- 97-2497	
栃尾地域図書館	53-3005	
文 書 資 料 室	36-7832	互尊文庫と同じ
栃 尾 美 術 館	53-6300	毎週月曜日 (祝日の場合は翌日) ※展示替等による臨時休館あり